

ビスカイノが見た慶長（1611年）三陸津波（続：概要）

渡邊 偉夫*

著者（1997）は「ビスカイノが見た慶長（1611）三陸津波の実態」という題名で報告した。これは「セバスチャン・ビスカイノ金銀島探険記」（以下ビスカイノ報告）を村上（1922, 1966復刻版）が訳註したものをを用いて議論した。ところが、増訂大日本地震史料（1941）にはそのまま掲載せず、何故か大切なところが省略された資料となっている。また、そのまま引用した論文がさえある。

西田（1998）は最近村上の訳註が読みにくく、誤訳があるといわれた箇所を改訂し、全体を素人にもわかるように書き改め、工夫して書いた。また、ビスカイノ報告の背景を明らかにするとき、大泉（1994）と高橋（2000）の解説が本質をついている。

本報告は新しく見直された著書、論文などを参考にし、ビスカイノが見た慶長（1611年）三陸津波のいくつかの問題点と疑問点（誤り）を解明したものである。

1. ビスカイノ報告の原本はない。現存するビスカイノ報告は原本でなく、謄本である。原本から謄本へ手書きで移し替えられたため、特に地名に誤りが多かった。西田（1998）は三陸沿岸調査の地名は全面的に改正すべきであるといっている。

2. ビスカイノ報告に関する日本側の史料が皆無なのは何故か？初代将軍徳川家康はビスカイノを無視する姿勢が見られ、2代将軍秀忠もこれになった。共にビスカイノ報告では大悪人と書かれている。とこ

が、伊達政宗はビスカイノから日本人で唯一の善人として、絶大な信用を得ていた。

ところで、政宗はビスカイノの行動を完全に把握しており（家康の指示の可能性もある）、家康へのきずかいから記録を残さなかったと思われる。一方、ビスカイノが新イスパニア（今のメキシコ）へ帰るときに乗船したサンフアン・パウテスト号について、伊達家の記録には詳細に書かれているが、ビスカイノのことは一言も触れていない。しかし、ビスカイノ報告にかなり長く書かれているので、この矛盾をどのよに解釈したらよいのであろうか。

3. ビスカイノの三陸沿岸調査は政宗の指示どおりに行なったと思われる。これはビスカイノ報告を読めば明らかである。なお、ビスカイノはおそらく三陸現地の地名を自ら調査あるいは確認したことはない。

4. ビスカイノ報告は背景を知れば知るほど奇妙な記録である。ビスカイノ報告から慶長津波の実態を読み取ることは無理である。したがって、日本側の史料を補うものは全くないといってよい。

本文は「渡邊偉夫, 2002, ビスカイノが見た慶長（1611年）三陸津波, 月刊海洋, 号外No. 28, 総特集 津波研究の最前線・Ⅱ, 10-14」に掲載してあるので、参照されたい。

* 〒983-0045 宮城県仙台市宮城野区宮城野2-13-5-305